



愛知県の冬の風物詩は？

春の鯉のぼり。

夏の入道雲。

秋の運動会。

その季節や時期を意識的に特徴づける風物詩は、様々に存在します。

中には全国的に広く知られている物から、土地所だけで知られている物もあるでしょう。

私の故郷北海道にも、有名な冬の風物詩があります。

「雪虫」と呼ばれる小さな虫です（ご存じの方はおられるでしょうか？）

体長は5ミリ前後。

全体が白い綿に包まれたように見え、秋の終わり頃にだけ空をはらはらと舞います。

地元では「雪虫を見ると一週間以内に初雪が降る」と言われていました。

無言の虫たちから送られる冬の便りに、「もうすぐ雪だ！」と飛び跳ねていた小さい頃を思い出します。

ちなみに、今年は温暖化の影響なのか、この雪虫が大量発生して大変だったというニュースも飛び込んできました。

私の記憶の中では、雪虫にはプラスのイメージしかありませんが、今年は「大迷惑」がピッタリくるほどの発生ぶりだったそうです。

ほんの少しだけ舞っている時は「風物詩」で、その数が度を越えると「大迷惑」。

「過ぎたるは猶及ばざるが如し」とも言いますが、どんな物事にも「ちょうどいい塩梅」というものがあるんだなぁと改めて思ったところです。

さて、愛知県にも冬将軍が一步また一步と近づいてきました。
身の回りにある様々なものたちが、冬の訪れを知らせてくれていることと
思い、以前尋ねてみたことがあります。

「愛知県ならではの冬の風物詩はなんですか？」と。

すると、ある方が、名古屋駅前にあるナナちゃん人形のことを教えてくれ
ました。

私は見たことが無いのですが、どうもその人形が季節によって色んなコス
チュームを身にまとうそうで、冬はサンタクロースになるとのこと。

それを見ると冬の訪れを感じるとのことでした。

愛知県ならではの風物詩、他にも浮かんだ方はぜひ教えてください。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>



冬の訪れを感じる季節になると共に、2023年にも少しずつ「終わり」が
見えてきました。

年の瀬にも沢山の風物詩がありますが、私が真っ先に浮かぶのは「除夜の
鐘」です。

あの鐘の音を聞いて、一年の終わりを強く意識する人は多いでしょう。

ゴーンゴーンと何度も打つのは、煩惱(ぼんのう)の数に由来しています。

煩惱とは、人の心を惑わせたり、悩ませ苦しめたりする心のはたらきのこ
と。

それを、鐘を撞くごとに一つずつ祓って、来年はもっと良い年になります
ようにと願いを込めるわけです。

煩惱が、全部で108あることはよく知られています。

でも、その全てを覚えている人はほとんどいないでしょう。

かくいう私も、はっきり覚えているのは僅かに3つだけです。

その3つとは、貪欲(とんよく)、瞋恚(しんに)、愚痴(ぐち)。

煩惱の中でも、特に人の心を蝕む事から「三毒の煩惱」とも言われていま
す。

貪欲(とんよく)とは、簡単に言うと「ほしがかる気持ち」です。

欲望です。

欲望には、限りがないと言われます。

一つ欲望が叶えばまた次の欲が出てきて、とどまることはありません。
この状態を、貪欲(とんよく)といいます。
貪とは「必要以上にほしがること」です。
お金でも物でも評価でも、必要以上に欲しがったために我が身を破滅に追い込むケースは少なくありません。
暴走した心の欲が、身を滅ぼすと教えられています。

瞋恚(しんに)とは、簡単に言うと「怒り」です。腹立ちともいいます。
不快なものに対して怒ったり、妬んだり、恨んだりすることです。
その不快な心境を表にぶちまけ、周囲をより不快にさせることも含みます。
怒りという感情で、人生を台無しにしてしまうケースも多いです。
さらに厄介なのは、腹立ちや怒りは一時的なものにとどまらず、怨みやつらみとなって残り続けることがままあることです。
いつまでも怒りの火がくすぶり続け、心を荒(すさ)ませていきます。
この心の荒れが、その人を一層不幸にすると言われます。

愚痴(ぐち)とは、「本当のことが分かっていない」ということです。
一般的には不平不満が口からこぼれることを指しますが、実際には「愚かなものの見方」という意味があります。
自分はいつも正しい。
自分こそが世界の中心。
他の人はみんな間違っている。
こういう独善的で狭窄な見方のことを指します。
この世界は、あらゆるものが関わり合い、支え合って成り立っているのに、自分だけが正しいということはありません。
そうした本質的なことが分からず、自分の基準や物差しでしか物事を見ることが出来ない。
「愚かな知り方」で世界を見ているので、「愚痴」といいます。
本当のことが分からないから、自分の思いだけで不平不満をこぼすのです。
さすがに「三毒」というだけあって、中々手ごわい心のはたらきです。
大みそかに鐘を撞くだけでは、残念ながら乗り越えられそうにありません。
だからこそ、普段からどうやってこの三毒に向き合うかという、日常の過ごし方こそが大切なのだと思います。
誰の心にも存在するのが煩惱だからです。

一昨年、大きな病を経験して生死の境をさまよった知人が、私に次の話をしてくれました。

今まで、あれが欲しいとか、これが足りないとかいろいろ文句を言うことが多かったんですけど、病気のおかげで人生の見方が変わりました。

もうこのまま命が無くなってしまふんじゃないかと思うほどの病を経験して、今では『家族と元気に過ごせることが一番の幸せ』と心から感じるようになりました。『他には何にもいらぬ』とも思えました。生きて、家族と過ごせることがこんなにありがたいんだという感謝の気持ちで、毎日を過ごしています。

このお話を聞いて、知足(ちそく)という考え方が頭に浮かびました。

知足とは、「足るを知る」ということです。

あれも無いこれも足りないと嘆き、怒り、必要以上に欲するのではなく、すでに足りているもの、今あるものに感謝をする心づかいです。

感謝の心で満たされている時、三毒は鳴りを潜めます。

「ありがたいなあ」や「幸せです」と毎日の生活の中で発する感謝の言葉は、お坊さんが鳴らす鐘の音よりもずっと自分の心に響くのだと思います。

今年も残り1か月。

感謝の心で2023年を締めくくりたいと思います。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

